

# 令和2年度 事業計画・収支予算の概要

## ～JMU関連・新型コロナ対策に全力～

### 事業計画

今、舞鶴の経済は、「JMU舞鶴事業所商船建造撤退」の衝撃がはしっています。造船は海軍工廠の時代から舞鶴市の経済の中心で、現在も“ものづくりのまち—まいづる”の象徴です。

我々は、戦後最悪の緊急事態に対し、英知を結集し総力を挙げて対応する必要があります。

「新型コロナウイルス」をはじめ、国際経済はもとより、国内にも様々な懸念材料があります。舞鶴も例外ではなく、人口減少や少子高齢化が進行するとともに、人手不足が益々深刻化するなど、克服すべき課題は少なくありません。

舞鶴商工会議所は、地域経済の発展を見据え、会員企業に密着するとともに、常に耳を傾け、柔軟な調整力と行動力を持った「地域唯一の総合経済団体」とし

て機能しなければなりません。役員・議員はもとより全会員が一丸となって、国や府、市との強固な信頼関係のもとで、以下の事業を重点として取り組みます。



今年度の重要課題に“JMU”対応  
(写真は3月13日の第1回「特別委員会」)

### 基本方針

#### 1. 稼げるまちを創るために

今年度の最重要課題は、「JMU商船建造撤退」への最善・最高の対応です。既に、「全会員への緊急アンケートの実施」や「特別委員会の設置」など、積極的な対応に努めていますが、影響を受ける企業とその従業員の思いに応えるべく、全力を傾注し取り組みを進めます。

また、中国武漢市で発生した「新型コロナウイルス」の感染拡大によって、様々な経済活動に多大な影響が懸念されています。当所も既に「相談窓口」の開設や融資などの支援に取り組んでいますが、引き続き適時適切な対応に努めます。

リダンダンシー機能を有する本市として、「京都舞鶴港国際埠頭の2期工事」や「山陰新幹線の京都府北部ルート誘致」、「舞鶴若狭自動車道の舞鶴西インターから敦賀ジャンクションの4車線化」などの促進に向け、京都府や舞鶴市とともに国等への働き掛けを強化します。

#### 2. 企業の「夢と希望」を応援

情報化社会の進展は、既に産業の主流である—といわれ、従来型の手法や発想では対応できない時代になりつつあります。一方、市内の中小企業を取り巻く環境は、引き続き人口減少をはじめ、人手不足や後継者問題など、多くの課題の中で大変厳しい状況が続いています。

“身の丈に合った”ICTへの対応や、「働き方改革」は4月から中小企業にも本格的な適用が開始されます。「生産性の向上」につながり、会員事業所の利益を最優先に、「元気な企業」を増やしていくことを目指して、適確な情報提供、相談活動の充実に努めます。

また、「稼ぐ力」を高めようとする事業所に対しては、積極的な経営支援を進めてまいります。さらに、最新の経済情報の提供をはじめ、国・府の新規施策や制度紹介、専門家との連携による課題解決など、経営力の向上に繋がる対応に努めることで、「元気な企業」を増やしていきます。